

TURNING THE LEAVES OF HORIZONS

Nerhol



水平線を捲る

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

September 6—November 4, 2024

会期: 2024年9月6日(金)—11月4日(月・祝) 主催: 千葉市美術館、朝日新聞社 協力: Yutaka Kikutake Gallery
休室日: 9月9日(月)、24日(火)、10月7日(月)、21日(月) ※第1月曜日は全館休館
開館時間: 10時—18時(金、土曜日は20時まで) ※入場受付は閉館の30分前まで
観覧料: 一般1,200円(960円)、大学生700円(560円)、小・中学生、高校生無料
Closed: September 9, September 24, October 7, October 21
Hours: 10:00—18:00 (Fridays and Saturdays until 20:00)
Admission: Adults ¥1,200 (¥960) / College students ¥700 (¥560) /
Other students (high school and younger) free



※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料 ※()内は前売り、市内在住65歳以上の方の料金
※前売り券は、ミュージアムショップまたはローソンチケット(Lコード:34662)、セブンイレブン(セブンチケット)、
千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて9月5日まで販売(9月6日以降は当日券販売)
※ナイトミュージアム割引: 金・土曜日の18:00以降は観覧料半額 ※10月18日(金)は「市民の日」につき観覧無料
※本展チケットで7階「Nerhol展関連 コレクション展」、5階常設展示室「千葉市美術館コレクション選」もご覧いただけます。
Organized by Chiba City Museum of Art, The Asahi Shimbun Company Support: Yutaka Kikutake Gallery

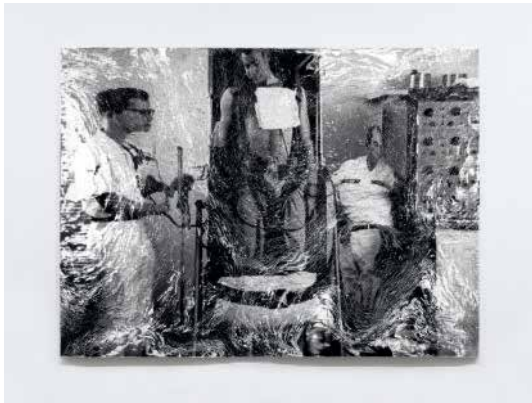


《Spiraea cantoniensis》2023年 ©Nerhol
「REVERBERATION」The Mass 展示風景より Courtesy of Yutaka Kikutake Gallery
Photo by Yosuke Torii



《carve out / E.M 38a》2023年 ©Nerhol
Courtesy of Yutaka Kikutake Gallery
Photo by Daisuke Shima Photography

表: 「Nerhol展 "Affect"」 第一生命ギャラリー展示風景より
2023年 ©Nerhol Courtesy of Yutaka Kikutake Gallery
Photo by Daisuke Shima Photography



《Remove》2019年 ©Nerhol
Courtesy of Dai-ichi Life Gallery and Yutaka Kikutake Gallery
Photo by Shintaro Yamanaka(Qsyum!)



《Interview / Mr. Isao Pastelin》2024年 ©Nerhol
Courtesy of The AMMA Foundation Photo by Daisuke Shima Photography

Nerhol 水平線を捲る Nerhol: Turning the leaves of horizons

Nerhol(ネルホル)は、田中義久(1980-)と飯田竜太(1981-)により2007年に結成されたアーティストデュオです。二人の対話を契機に、人や植物など「移動」にまつわる様々な事象の
リサーチを通じ、他者に開かれてきた長年におよぶ表現活動の歩みを、美術館で初となる大規模な
個展によって紹介します。

Nerholの活動は、グラフィックデザインを基軸とした田中と、彫刻家である飯田の協働性を
特徴としています。人物の連続写真を貼り重ねて彫る初期のポートレートから、今日では帰化植物*や
珪化木*、アーカイブ映像まで対象を広げ、独自の世界観を深化し続けてきました。

写真と彫刻、自然と人間社会、見えるものと見えないものといった複数の境界/間を、日々の
会話のように行き来して紡がれてきた作品は、私たちが多様な解釈へと誘います。

「Nerhol 水平線を捲る」展では、これまでの活動における重要作や未発表作に加え、
千葉市の歴史や土地と関わりの深い蓮をテーマとした最新作、さらには二人が選ぶ美術館の
コレクションを展示し、この場所だけでしか体験できない空間を創出します。

人間の知覚や現代社会における一義的な認識では捉えることができない、

Nerholによる時間と空間の多層的な探究は、千葉の地で豊かな展開を見せることでしょう。

*帰化植物 | 自生地から日本国内に持ち込まれ野生化した外来種の植物
*珪化木 | 地中で長い時間をかけて珪酸が浸透し石化した植物

田中義久 Yoshihisa Tanaka
グラフィックデザイナー。1980年静岡県生まれ。
2004年武蔵野美術大学造形学部空間演出デザイン学科卒業後、2023年より
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科在学中。

飯田竜太 Ryuta Iida
彫刻家。1981年静岡県生まれ。日本大学芸術学部美術学科彫刻コース卒業後、
2014年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。
日本大学芸術学部准教授。



Photo by Sakiko Nomura



《Read the historical facts》series 2023年 ©Nerhol
「REVERBERATION」The Mass 展示風景より
Courtesy of Yutaka Kikutake Gallery
Photo by Yosuke Torii



《fumbling / C》2021年 ©Nerhol
Courtesy of Yutaka Kikutake Gallery
Photo by Osamu Sakamoto

展覧会関連イベント

事前申込制イベントの詳細や申込方法は、美術館ホームページをご覧ください。

- オープニングトーク
出演：Nerhol、大浦周（埼玉県立近代美術館主任学芸員）、庄子真汀（当館学芸員）、森啓輔（当館学芸員）
9月7日（土）14:00より（13:30開場予定）
11階講堂にて／先着80名（当日12:00より1階にて整理券配布）／聴講無料（要展覧会チケット）

- アーティストトーク（事前申込制）
出演：Nerhol、小谷元彦（美術家・彫刻家）
10月13日（日）14:00より（13:30開場予定）
11階講堂にて／定員80名／10月3日（木）申込締切／聴講無料（要展覧会チケット）

- ワークショップ「Nerholオリジナル和紙を使って、作品を作ってみよう」（事前申込制）
講師：Nerhol
9月28日（土）10:15-11:45
5階ワークショップルームにて／定員20組（参加者1名につき保護者1名同伴）／対象：4歳～小学2年生／ 9月18日（水）申込締切／要参加費（要展覧会チケット）

- ワークショップ「円から円でない形を彫り出すーNerhol 《circle》を作ってみる」（事前申込制）
講師：Nerhol
9月28日（土）14:30-16:30
5階ワークショップルームにて／定員20名／対象：小学5年生以上／9月18日（水）申込締切／要参加費（要展覧会チケット）

- 市民美術講座「アーティストデュオNerholーその17年の軌跡」
講師：森啓輔（当館学芸員）
9月21日（土）14:00-15:30（13:30開場予定）
11階講堂にて／先着80名（当日12:00より1階にて整理券配布）／聴講無料

- 市民美術講座「コレクションを通して見るNerhol／Nerholを通して見るコレクション」
講師：庄子真汀（当館学芸員）
10月19日（土）14:00-15:30（13:30開場予定）
11階講堂にて／先着80名（当日12:00より1階にて整理券配布）／聴講無料

- 担当学芸員によるギャラリートーク
9月11日（水）14:00より／参加無料（要展覧会チケット）
- 担当学芸員によるショートレクチャー
9月14日（土）、10月5日（土）17:30-18:00
1階多目的室にて／先着30名程度／参加無料

- 美術館ボランティアスタッフによるギャラリートーク
9月11日をのぞく会期中の毎週水曜日14:00-14:30
8階展示室にて／先着15名（当日13:30より8階受付にて整理券配布）／参加無料（要展覧会チケット）
※水曜日以外の14:00にも開催することがあります。
※混雑時には中止する場合があります。

- ちばしび託児サービスデー（事前申込制）
9月7日（土）13:00-16:00

同時開催

7階企画展示室「Nerhol展関連 コレクション展」
休室日：9月9日（月）、24日（火）、10月7日（月）、21日（月）
5階常設展示室「千葉市美術館コレクション選」
休室日：第1月曜日
「Nerhol 水平線を捲る」展をご観覧の方は無料

- 4階子どもアトリエ
「つくりかけラボ15 齋藤名穂 | 空間をあむ 手ざわりハンティング Tactile Hunt Weaving Space」
2024年6月12日（水）-9月29日（日）
休室日：第1月曜日／観覧料：無料

- 「つくりかけラボ16 金川晋吾 | 知らないうちにはじまっていて、いつ終わるのかわからない（仮称）」
2024年10月12日（土）-2025年1月26日（日）
休室日：第1月曜日、11月11日（月）-11月14日（木）、年末年始／観覧料：無料

次回展予告

「ザ・キャビンカンパニー大絵本美術展〈童堂賛歌〉」
2024年11月16日（土）-2025年1月13日（月・祝）

交通案内

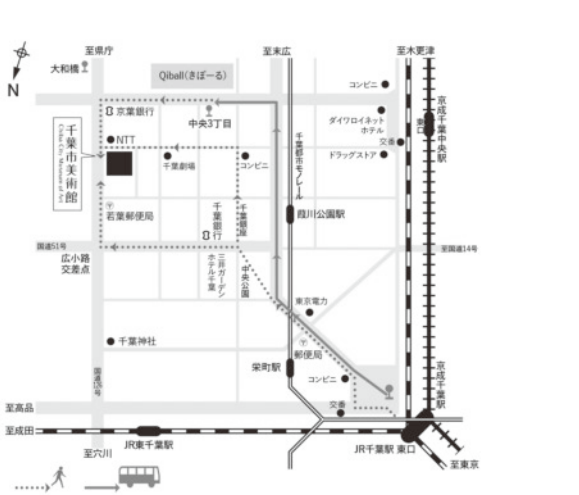
JR千葉駅東口より
・徒歩約15分
・バスのりば7番より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」または「大和橋」下車徒歩約3分
・千葉都市モノレール県庁前方面行「葦川公園駅」下車徒歩約5分
京成千葉中央駅東口より徒歩約10分
東京方面から車では
・京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車、国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く
・地下に機械式駐車場があります（車高155cmまで）。
・シェアサイクルスポットがあります。

※内容やイベントが変更になる場合があります。
最新の状況はホームページをご確認ください。



千葉市美術館

〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8
Tel. 043-221-2311（代表）
https://www.ccma-net.jp



《Carve out / E.M 38a》2023年 ©Nerhol
 Courtesy of Yutaka Kikutake Gallery
 Photo by Daisuke Shima Photography

表:「Nerhol展“Effect”」 第一生命ギャラリー展示風景より
2023年 ©Nerhol Courtesy of Yutaka Kikutake Gallery
Photo by Daisuke Shima Photography



《Interview / Mr. Isao Pastelin》2024年 ©Nerhol
 Courtesy of The AMMA Foundation Photo by Daisuke Shima Photography

Nerhol 水平線を捲る

Nerhol(ネルホル)は、田中義久(1980-)と飯田竜太(1981-)により2007年に結成されたアーティストデュオです。二人の対話を契機に、人や植物など「移動」にまつわる様々な事象の研究を通じ、他者に開かれてきた長年におよぶ表現活動の歩みを、美術館で初となる大規模な個展によって紹介します。

Nerholの活動は、グラフィックデザインを基軸とした田中と、彫刻家である飯田の協働性を特徴としています。人物の連続写真を貼り重ねて彫る初期のポートレートから、今日では帰化植物*や珪化木*、アーカイブ映像まで対象を広げ、独自の世界観を深化し続けてきました。写真と彫刻、自然と人間社会、見えるものと見えないものといった複数の境界／間を、日々の会話のように行き来して紡がれてきた作品は、私たちを多様な解釈へと誘います。「Nerhol 水平線を捲る」展では、これまでの活動における重要作や未発表作に加え、千葉市の歴史や土地と関わりの深いテーマとした最新作、さらには二人が選ぶ美術館のコレクションを展示し、この場所だけでしか体験できない空間を創出します。人間の知覚や現代社会における一義的な認識では捉えることができない、Nerholによる時間と空間の多層的な探究は、千葉の地で豊かな展開を見せることでしょう。

*帰化植物 | 自生地から日本国内に持ち込まれ野生化した外来種の植物
*珪化木 | 地中で長い時間をかけて珪酸が浸透し石化した植物

田中義久 Yoshihisa Tanaka
グラフィックデザイナー。1980年静岡県生まれ。
2004年武蔵野美術大学造形学部空間演出デザイン学科卒業後、2023年より慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科在学中。

飯田竜太 Ryuta Iida
彫刻家。1981年静岡県生まれ。日本大学芸術学部美術学科彫刻コース卒業後、2014年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。日本大学芸術学部准教授。



Photo by Sakiko Nomura